

学校の教育目標

<ul style="list-style-type: none"> ・よく考える子 ・心ゆたかな子 ・健康な子

学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の確実な定着を図るため、問題解決的な学習、体験的な学習など指導方法、指導形態を改善・工夫し、教員の授業力を高め、基礎学力の定着を図る。

確かな学力向上に向けた具体的な取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書き、音読や暗唱、対話、発表などにより基本的な国語の力を定着させる。語彙を豊かにするために国語辞典を活用させる。 ・体験的な理解や具体物を活用した思考や理解、反復学習などの繰り返し学習を重視する。
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の目標を達成するために、記録、要約、説明、論述などの言語活動を計画的に取り入れる。 ・問題解決的な学習過程で言葉や図表を用い、自分の考えを説明したり、表現したり、話し合ったりする活動を充実する。 ・互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えが発展するような活動を取り入れる。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する方法を身に付けさせるために、学校図書館やパソコンの活用法を指導する。 ・児童が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を取り入れる。

「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題			
	○結果分析から明らかになった成果	▲結果分析から明らかになった課題	
	第4学年	第5学年	第6学年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○本に親しんだり、辞典を使って進んで調べたりするなど関心が高い。相手や目的を意識して、文章を書くことができる。段落ごとに内容を理解して読み取ることができる。 ▲大事なことを落とさずに聞くこと、新出漢字の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることができる。 ▲聞き取るべき内容を判断して、話の中心となる情報についてメモを取りながら聞くことに課題がある。複数の資料を活用して、自分の考えを書く力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことができる。敬語の使い方を理解している。 ▲説明文の内容を読み取ること、漢字の成り立ちの理解に課題がある。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを積極的に発表し、課題に意欲的に取り組んでいる。図形の性質についてよく理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小数の四則計算はおおむね正しく行うことができる。計算の繰り上がりや繰り下がりの仕方は身に付いている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数への関心・意欲が高い児童が多い。公倍数や公約数、面積と体積、単位量あたりの大きさについてよく理解している。

	<p>▲文章問題の題意を捉えて立式することに課題がある。小数や分数の計算を正確にできない児童がいる。</p>	<p>▲問題の場面から情報を正しく取り出し、表にまとめそれらの関係について読み取ることが課題である。複合図形の面積を求める際に、不要な部分を除いたり、分けたりする計算過程でのミスがある。</p>	<p>▲小数と分数の計算、分数と小数の関係の理解について課題がある。</p>
社 会	<p>○資料から分かる事柄について読み取り、その問題点について考えることができる児童が多い。地図記号や土地の様子を理解している。</p> <p>▲自分の考えを整理することが苦手な児童がいる。</p>	<p>○東京都の地形や特色ある地域についてはよく理解できている。</p> <p>▲問われている内容を明確にすることができず、情報の背景を読み取ることに課題がある。</p>	<p>○日本の農業と水産業、工業生産についてよく理解している。</p> <p>▲国土の自然などの様子の理解に課題がある。</p>
理 科	<p>○実験の条件や方法を理解し、正しく実験を行うことができる。考察から自分の考えを導き出すことができる。</p>	<p>○温度計や検流計などを正しく扱うことができるとともに、グラフから結果を正しく読み取ることができる。</p> <p>▲磁石の性質について、日常生活と関連付けて考えることに課題がある。</p>	<p>○ふりこのきまり、顕微鏡の使い方を理解している。</p> <p>▲天気の変化、物のとけ方、電流のはたらきの理解に課題がある。</p>
調査以外の教科についての成果（○）と課題（▲）	<p><音楽></p> <p>○曲の様子を感じ取ったり、楽器の音色を味わったりして聴いている児童が多い。</p> <p>▲曲想にふさわしい表現を工夫し音楽的な思いをもって表現している児童もいるが、演奏することに精一杯で表現の創意工夫まで到達できていない児童もいる。</p> <p>▲基礎的な技能を身に付けて歌ったり、きれいな音色で楽器を演奏したりしている児童が多い一方で、音楽活動に対し苦手意識をもつ児童もいる。</p> <p>▲音楽のどのようなところから、そう感じたのか、音楽の仕組みに着目しての語彙が少ない。</p> <p><図画工作></p> <p>○新しい題材や材料に興味や関心をもって取り組む姿が見られる。</p> <p>○イメージを広げたり、形や色から発想したりできる。</p> <p>○材料の特徴を生かして表現することができる。</p> <p>○友達の作品のよさを見付けることができる。</p> <p>▲自分らしい発想、思いついたことを表すための工夫が難しい児童がいる。</p> <p>▲友達の作品のよさを言葉で伝えることが難しい児童がいる。</p> <p><家庭></p> <p>○学習した掃除や洗濯について、自宅でも実践しており、家庭生活と結び付いている。</p> <p>○調理実習の仕方に慣れ、準備から片付けまで自分たちの力でできる実践力がある。</p>		

	<p><体育></p> <p>○ほとんどの児童が運動に対する興味・関心をもって意欲的に学習に取り組んでいる。</p> <p>▲運動技能面で個人差がある。体力テストの結果からは投力に課題がある。</p>	
<p>調査以外の学年について 1学期の学習における成果(○)と課題(▲)</p>	<p>第1学年</p>	<p>○国語への関心・意欲が高く、積極的に発言している。進んで読書に取り組んでいる。言葉のまとまりに気を付けて音読できる。場面の様子を想像しながら読むことができる。短い文を書くことができる。平仮名を正しく書くことができる。</p> <p>▲話の内容を考えながら、話し手を見て最後まで聞くことに課題がある。助詞、拗音、撥音の表記に課題がある。</p> <p>○算数への関心は高く、10までの数について計算ができる。数の順序や大小を理解している。</p> <p>▲文章が読み取れず、加法、減法の場面を判断することが難しい児童がいる。順序数と集合数を理解していない児童がいる。</p>
	<p>第2学年</p>	<p>○音読、漢字練習、読書などを進んで行い、関心・意欲が高い児童が多い。文章を読み取る力が全体的につき、内容をつかみ理解している。主語と述語を対応させて文を書くことができるようになった。</p> <p>▲話を最後まで聞くこと、順序を考えて相手に伝わる声の大きさと話すことに課題のある児童がいる。個別の指導がないと文を書けない児童、主語と述語の関係が十分ではない児童が数名いる。</p> <p>○算数に対する関心・意欲は高く、授業中も積極的に発言している。計算を得意とする児童が多い。</p> <p>▲「時間と時こく」の理解、文章問題の題意を把握することに課題がある。</p>
	<p>第3学年</p>	<p>○国語に関する関心・意欲が高く、進んで読書をしている。国語辞典を使うことに興味をもっている。文章の内容をつかみ読み取る力がついてきた。思ったことを自分の言葉で書くことができる。</p> <p>▲大事なことを落とさずに聞くこと、順序よく話すことに課題がある。順序を考え、段落を意識して書くことに課題がある児童がいる。</p> <p>○意欲的に学習に取り組み、計算を得意とする児童が多い。</p> <p>▲単位の換算、文章問題を線分図で表し、考えることに課題がある。</p>

<p>昨年度の授業改善プランに基づく結果(○)と主な課題(▲)</p>	
<p>○「自分の考えを述べる、説明する」力を付けるために、全教科において書くことの日常化を図ることにより、事実と意見を区別して書くことができるようになってきた。</p> <p>○小グループでの学び合いにより、言語活動の充実を図ることができてきた。</p> <p>○問題解決能力を高めるために、問題場面を図で表し、グループで話し合うことによって考えを共有する習慣がついてきた。</p> <p>○少人数指導によって、個別指導の時間を確保することができ、学習意欲が向上した。</p> <p>▲交流学习を取り入れ、互いの考えが広がったが、深まるどころまでは達成していない。</p> <p>▲学習内容の理解に個人差が大きい。</p> <p>▲「数学的な考え方」の理解には課題があり、継続的な指導が必要である。</p>	

<p>改善の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習力サポートテスト等の結果を分析・考察し、児童の理解が不十分で、習熟が低い内容については、再度指導をしたり、指導法を工夫したりして、習熟を図る。 ・一人一人の課題を明確にし、個に応じた指導を重視する。 ・問題解決学習において論理的に考える力を育てる。 ・小集団による協働的な学習活動を有効にするために聞く・話す力、対話の力を高める。
--------------	---

【本校の授業改善に向けた具体的な方策】

○学校全体として取り組む項目

△教員個々が取り組んでいる項目

<p>改善のための指導計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等の年間指導計画を見直し、計画的な指導をする。 ○算数では、学習力サポートテストや東京ベーシックドリルのテストの結果を分析し、つまずきそうな単元の時間数を増やすなどの工夫をする。 ○週案には目標を明確に記入し、1 単位時間の評価を適切に行い、次の時間に生かす。 ○週予定に書かれている時数と週案の時数を照らし合わせ、授業時数を把握し、適正に実施できるようにする。
<p>改善する指導内容 (教科、領域、観点等)</p>	<p>改善のための指導方法、指導体制</p>
<p>各教科</p> <p>国語「話すこと・聞くこと」</p> <p>「書くこと」</p> <p>「言語について」</p> <p>算数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分の考えを述べる、説明する」力を付けるために各教科において自分の考えを書いてまとめる時間をつくる。 ○グループで話し合い、全体で学び合う学習活動を工夫する。 ○ペア活動やグループ活動を多く取り入れて、児童が発表する機会を多くする。 ○机間指導の際、配慮を要する児童への声かけを多くし、適切な助言をしながら、コミュニケーションを図り、意欲を引き出す。 △各教科で振り返りを大切にする。日常の授業の様子をはじめ、単元の間及び終了時にノートやミニテストなどにより児童の理解度を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ○話形を活用し、自分の言葉で考えを正しく話せるようにする。 ○対話の進め方を指導し、対話が活用されるような学習活動を取り入れる。 △日常的な活動の中で、「話すこと・聞くこと」にねらいを絞った指導をしていく。また、学習のねらいが意識できるような教室掲示を工夫する。 △読み聞かせを行い、一定時間集中して聞くことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> △視写の学習活動を多く取り入れ、文の書き方に慣れさせる。 △文章の組み立てを意識させ、短作文の反復練習を行う。 △辞書を活用し、言葉の意味や使い方を理解して文章を書くようにする。 △書くことが苦手な児童に対して、文章を書く際のルールをまとめたプリントなどの補助教材を用意する。思いや考えを引き出すために対話をしながら文を書かせる。 △朝の「はげみタイム」に書く活動を取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> △新出漢字を定期的に練習する機会を設け、反復練習をする。定着するまで漢字の小テストを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別指導では、レディネステストを実施し、習熟度別にグループ編成をし、基礎・基本グループは人数を少なくし、個別指導を充実する。 ○習熟度別指導を効果的に進めるよう、単元前、授業前に進め方や進度について共通理解を図る。また、個別指導カードを作成し、担任と算数少数指導者との共通理解に生かす。 ○習熟度指導を充実させるため、補充的な学習、発展的な学習に対応できる教材開発をする。 ○問題解決能力を育てるために、児童が考える時間を十分に確保し、自分の考えを図や文で表し、それを表現する場を多くする。

<p>社会</p> <p>理科</p> <p>体育</p>	<p>○具体物や半具体物の操作活動を積極的に取り入れ、問題場面の理解や立式の判断ができる抽象概念の育成を進める。</p> <p>○理解が不十分な児童には、スモールステップで考えていけるような資料や問題を提示するようにする。</p> <p>△自分の考えをペアやグループ、学級で共有し、学び合う活動を増やす。</p> <p>△自力解決でつまづいている児童を集めて、少人数指導を行う。学習の理解度に応じた練習問題を用意する。</p> <p>△単元末テストの結果を分析し、理解が不十分なものについては、再度指導するなど、繰り返しにより定着させる。</p> <p>○様々な資料の中から自分が必要な情報を選び、資料をもとに自分の考えを明確にしていく活動を多く取り入れる。</p> <p>○自然現象や実験に対して、結果の予想や、予想した理由などを考えさせ、結果から考察をまとめるという問題解決型の学習展開を実施する。</p> <p>○観察、実験を多く取り入れ、観察の仕方や実験器具の扱い等の指導を確実にを行う。</p> <p>○体育指導補助員は、模範演技を示し、苦手な児童に個別指導を行う。</p>
<p>評価活動の工夫</p>	<p>○評価の観点を示し、自己評価したり、相互評価したりする機会を増やし、自分の学習の度合いが客観的につかめるようにする。</p> <p>○書くことについては、互いに読み合う交流活動を取り入れ、相互評価を行う。</p> <p>△座席表型記録用紙を使い、児童の実態を記録し、評価と指導の一体化を図る。</p> <p>△児童の作品やノートを分析し、変容をとらえて評価し、個々への指導に生かしていく。</p> <p>△振り返りカード等を使い、自己評価や相互評価ができるようにする。</p>
<p>家庭や地域との連携の工夫</p>	<p>○基礎学力を身に付けるためにも、家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>○生活科や総合的な学習の時間は、地域や保護者と積極的にかかわった学習活動に意図的・計画的に取り組む。</p>
<p>検証方法</p>	<p>○日常の授業の様子や、単元末の評価をサポートテスト等の結果と比較しながら検証していく。</p> <p>○個別指導カードに学習状況を記録するとともに、少人数指導教諭、非常勤講師と連携し、個別の状況を分析する。</p> <p>○学習時にこまめに評価記録を残し、次時にでもすぐに児童にフィードバックする。</p>

<p>【学力向上を支えるその他の取組】</p> <p>○ 国語・算数の基礎・基本の定着を図るために漢字・計算を中心とした朝の学習（はげみタイム）を充実させる。実施計画を見直し、学習力サポートテストで課題となったものについてくり返し練習できるようにする</p> <p>○ 朝の「はげみタイム」における東京ベーシックドリルの活用や4・5・6年生の希望者を対象にした放課後補習教室（アフタースクール）の実施により、基礎学力の定着を図る。</p> <p>○ 年間2回の読書月間、週1回の朝読書を行い、読書の喜びを味わわせると共に、読みの力を高める。</p> <p>○ 週1回、地域の保護者による読み聞かせを行い、本の楽しさに触れさせる。</p> <p>○ 学習発表会（2月実施）を通し、児童個々の学びの発信として企画力・表現力・思考力等各教科・領域の関連の総合的な学力を高める。</p>
--